



学校だより

学校教育目標

2月号(第565号)

令和5年 1月31日
横浜市立すみれが丘小学校

〈すすんで みんなで れいをつくして がんばりつづけて おもいあって かがやきつづけるすみれっ子〉
～豊かな人間関係の中で、一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合う子を育てます～

社会とつながり、視野を広げる

副校長 阿部 一平

この冬は、正門前の大きなイチョウの木が暖冬の影響からか12月になってもずいぶん葉を残していました。年末からの寒波で年が明けてからは、さすがにすべての葉を落としていましたが、子どもたちは、まだきれいに色づいた葉を拾い、大事そうにして、「これは赤ちゃん。これは私の手。」と見せてくれます。大人は、いや私は、そんな舞い散る落ち葉を見ながら「また掃き掃除がたいへんになりそうだ。」と思いを巡らすわけですが、改めて子どもたちの感性の豊かさとすばらしさに触れ、子どもたちの育ちと大人の関わりの大切さを考えさせられた次第です。子どもたちの感性に働きかけ、可能性を広げていくきっかけを作っていくことは大人の大切な使命です。今回は、5・6年生の図工の一場面をご紹介します。

授業では、協力企業から普段、見たり、触ったりすることがない本物の工業部品を提供していただき、その部品を組み合わせてイメージをもつところから始まりました。さて どう組んでいこうか…子どもたちは興味津々です。お招きした造形作家の先生から「この部品を使って自分の作りたいイメージをカタチにしてみよう」と、作品づくりについての



話を聞いた子どもたちは、ペンチやグルーガンを手にし、いつの間にか自分の物語の中に没頭していました。

そして、次の日。子どもたちは、作品づくりに使用した部品が街のどんなところで使われているのか説明を聞きました。その後、図工室を暗くし、仕上げた作品に光源を当て、その形の面白さや作品の見方の変化について感想交流をしました。交流の場では

自然に歓声が上がったり、拍手が湧いたり、子どもたちの実に生き生きとした姿がそこにありました。

(この授業は、図工が専門の猪股教諭がコーディネートして実現しました。授業の様子は学校 HP にも掲載されています。ぜひご覧ください。)

社会で活躍する方々から直接話を聞いたり、肌感覚で実感し体験したりすることで子どもたちの視野はぐんと広がっていきます。これからも出前授業等を通して、子どもたちが社会とつながり、視野を広げ、本物に触れながらその可能性を伸ばしていくチャンスをたくさんつくっていきたいと思います。

～裏面では、1月に行われた他の出前授業の様子もご紹介しています。～